

美の里づくり審査会特別賞

とうべつちょう あ ま とうべつちょう
当別町亜麻生産組合(北海道当別町)

よみがえれ！ 亜麻の花咲く里づくり

当別町は、札幌都心部から約 15～25km に位置する町で、農業を基幹として発展し、みどり豊かな農村景観を有していることから、近年では、その農村地域としての美しさや豊かさが注目され、都市住民の移住が増えています。

明治初期より栽培が始められた亜麻も、かつては、その美しい農村景観の一つとして、里の初夏を薄紫色の美しい絨毯で彩っていました。しかし、その後の化学繊維の普及により、亜麻の栽培は徐々に減少し、昭和 40 年代には、その美しい景観とともに、すっかり姿を消してしまいました。その途絶えてしまった景観をもう一度取り戻し、地域の活性化につなげようと始まったのが、本プロジェクトです。

活動のきっかけは、平成 14 年に札幌市のベンチャー企業「亜麻公社」が、当別町でアイガモ農法などの減農薬農法に取り組んでいる「大塚農業」に、かつて北海道でたくさん栽培されていた「亜麻」という北海道資源をもう一度復活させ、「子孫に残せる美しい里づくりをしよう」と働きかけたことです。

活動当初は、約 40 年も栽培が途絶えていたこともあり、栽培方法が分からず、海外の文献などを参考にしながら試行錯誤の連続でしたが、現在では、12 軒の農家で、8ha の作付けがされるまでになり、6 月下旬から 7 月中旬には、薄紫色の可憐な花で里を彩っています。

その復活した美しい景観は、平成 18 年から始められた「亜麻フォトコンテスト」につながり、亜麻についての知識・歴史・文化を広く知ってもらうためのイベントの一つとなっています。

また、平成 20 年からは、さらに多くの人に亜麻の美しさを知ってもらうため、亜麻の開花時期に合わせ「北海道亜麻まつり in 当別」を開催し、亜麻を活かした都市と農村の交流にも力を入れ、2 年目の今年は、約 1,700 人の来場者を集めました。

さらに、亜麻の種子から抽出される「亜麻仁油」は、サプリメントやドレッシングとして商品化されており、地域の景観保全活動としてだけでなく、持続可能な活動として、地域経済の活性化にも寄与しています。

これらの活動を通じ、亜麻の生産者をはじめ、町、研究機関、大学、商品製造・販売会社や地域住民など多様な主体との連携が図られ、産学官民(住民)のネットワークが構築されたことで、今後更なる地域活性化の推進が期待されています。

また、亜麻の栽培が盛んだった札幌市北区と連携し、両地域を結ぶJRの駅周辺を亜麻の花で彩り、亜麻の花で地域をつなげようという活動も本年度より始まりました。こうした周辺市町村と連携した地域間交流の輪も広げていくことを考えています。



風に揺れる亜麻の花